



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 32 〈セルフチェック〉

タイトル： “いつもどおり” と思う心に落とし穴！

【事例】

建屋内のドレンサンプ点検に伴い、作業員はサンプ内のドレン水位を下げるため、移送ポンプを起動し、屋外排水ピットへドレン移送を行った。しかし、このドレンは他のドレンとは異なり、建屋外に移送する際は、サンプリングして水質を確認し、移送許可を得た上で行うことが作業手順書に明記されていた。

作業員は、屋内ドレンサンプから屋外排水ピット間の移送という単純作業であることから、あまり深く考えず、いつものドレン移送と同じと思い込み、手順書の確認を怠ってしまった。

【ヒューマンファクターの視点から】

現場では、リスクが潜在する作業が数多くあります。手順書の確認などの基本動作をきちんと実施していればリスクを回避することもできますが、時としてそれらが疎かになることがあります。

今回の事例では、リスクが潜んでいたにもかかわらず、よく考えずに、いつもどおりやれば問題ないと思い込んでしまう「正常性バイアス」という人間特性が落とし穴になり、とるべき基本動作が疎かになってしまったと推測されます。

この対策としては、作業を実施する際は、一旦立ち止まってリスクが潜んでいないか自問自答（セルフチェック）することに加え、他者の目による安全確認（ダブルチェック）も効果があります。また、現場だけに頼るのではなく、作業の計画段階でリスクを評価し、今回のような人間が持つ心理的特性にも配慮し、ハード、ソフトの両面から、事前に取り得る有効な予防策をよく検討しておくことが肝要です。

行動前に一旦立ち止まり、「もしも…だったら」と自問自答しましょう！